

第3回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和3年2月24日（水）

場 所：＜書面開催＞

1. これまでの動きと今後の方向性

- 事務局から、これまでの経緯を説明の上、今後の方向性として短期・中期・長期的な目標設定について提案し、了承された。なお、主な意見は以下の通り。
 - 従来調査の「デジタル化」をまず進め、その後に予測技術等の確立・活用へと繋げ、最終的にDXの実現を目指すという方向性は妥当。
 - コロナ禍で、人や車の移動や観光流動などについては今後も変化が見込まれるため、各種検討にあたってはこれらの状況を十分考慮すべきである。
 - 短期・中期・長期対策について、スケジュール感を持って実施していくべきである。
 - 清水坂駐車場に観光バスが集中するため、行政機関と事業者等が連携し、ショットガン方式等の運用の制度化・システム化を検討し、実施していくことが必要である。
 - 協議会の成果が他地域にも活用出来る汎用性のあるものにするために、各施策の効果に関する感度分析（どのような利用者属性、地域特性にどの程度効果があるか等）の実施にも期待。
- 事務局から、第2回協議会の資料訂正を報告し、公表資料は差し替えることとなった。

2. ICT・AIの活用について

- 事務局から、AIカメラやETC2.0、Wi-Fiパケットセンサーの運用実績を踏まえた課題及びその対応策について説明し、了承された。なお、今後の運用に対する主な意見は以下の通り。
 - ICT・AI技術の活用にあたっては、はじめに目標とする交通の在り方や施策目的をより具体的に明らかにし、協議会や関係機関と共有することで、必要となるデータや機器配置などを一層明確化すべきである。

3. 調査・分析結果

- 事務局から、東山エリアの課題の更なる分析結果について説明し、今後の検討にあたって留意すべき点について意見交換を行った。主な意見は以下の通り。
 - 通過交通および短時間の滞在交通が多いことを踏まえると、観光交通による負荷対策については、これらの排除が一つの解決策と言える。
 - 迂回誘導などの対策を検討していく上で、受け皿となる他路線の状況を十分考慮する必要がある。カーナビゲーションの経路案内の優先度を下げるといった誘導方法も考えられる。
- 事務局から、新型コロナウイルス感染拡大による東山エリアの交通状況変化について説明し、今後分析を継続するにあたっての留意点について意見交換を行った。主な意見は以下の通り。
 - コロナ禍による影響を悲観的に捉えるのではなく、得られたデータをもとに、望ましい交通状態を明らかにするなど教訓を見だし、どのような施策を以て再現可能かを検討すべきである。

4. 今後の取り組みについて

- 事務局から、新たなデータ取得と今後のスケジュールについて説明し、了承された。なお、主な意見は以下の通り。
 - 今後の予測技術の確立にあたっては、リアルタイム性のあるデータが必要であり、今回、一部の路線バスに配備した特定プローブデータなどのリアルタイムに近いデータの拡充を、引き続き検討すべきである。